

第2回堺市下水道ビジョン懇話会（議事概要）

- 1 **開催日** 平成28年1月15日（金） 午前10時から午前11時50分
- 2 **場所** 堺市上下水道局本庁舎4階研修室
- 3 **出席者** ○構成員（敬称略 順不同）
尾崎平 貫上佳則 中川澄 林由佳
○上下水道局（所属順）
上下水道事業管理者、上下水道局管理監兼局次長、
上下水道局理事兼経営管理部長、営業部長、上水道部長、下水道部長ほか
○その他 傍聴者 4名、報道関係者 2名

4 議題概要

議題1 堺市下水道ビジョン懇話会のスケジュールの確認

資料1 「堺市下水道ビジョン懇話会のスケジュールの確認」について事務局説明

議題2 改定堺市下水道ビジョン素案（たたき台）について

資料2 「改定堺市下水道ビジョン素案（たたき台）説明資料」について事務局説明

ビジョン改定の狙い

（貫上座長）

堺市下水道ビジョンは誰を対象として作成しているのか。

（事務局）

市民や我々も含め、全てのステークホルダーを対象として作成している。

改定堺市下水道ビジョンの基本理念と使命及び将来像の関係

（林構成員）

資料2のP.4にある図において、使命3に将来像④と⑥が含まれていて、使命1とまたがるところに将来像⑤があることに違和感がある、将来像⑤と将来像⑥の番号を入れ替えるべきではないか。

（尾崎構成員）

図の中で【挑戦】しんらいを築く堺の下水道の挑戦」を4つの使命に対して+（プラス）で表現しているが、土台として支えるような表現に変更し、市民を含めて市が一丸となり堺の将来像を支えることが分かるような図にするべきではないか。

(貫上座長)

堺市マスタープランが将来像に対応していることがこの図からは伝わりにくいように感じる。使命1と使命2や使命2と使命3に重なる項目が存在しないことなどから、このようなベン図での表現は適切でないように感じる。

(事務局)

分かりやすい表現については我々も課題であると感じている。「しんらいを築く堺の下水道の挑戦」が土台となって支えていることが分かる表現も含めて、誰が見ても一目で理解できるような図を次回の懇話会までに作成する。

(尾崎構成員)

Ⅲ－9において、将来像①から⑦まで絵が描かれているのに対し、(5) しんらいを築く堺の下水道への挑戦だけが絵が抜けているのはなぜか。

(事務局)

絵が抜けていることについて、現在検討中であり、次回までに結論を用意する。

改定下水道ビジョンの戦略

(林構成員)

戦略①『協働』において「局の技術・ノウハウと外部チャンスの結合」とあるが、「外部チャンス」の意味を説明して頂きたい。

(上下水道事業管理者)

資料での説明が不足していたところもあるが、外部チャンスとは今まで我々だけでやろうとしていた経営について、民間だけでなく、市民の方を含めて協働していくということ表現した言葉であり、たとえば相手が民間企業であれば、チャンスがあれば積極的にアタックして共同事業等を進めていく、というような考えを戦略としている。

(貫上座長)

協働する、という考え方については全く賛成であるが、「外部チャンス」という言葉の定義がわからない。民間のことなのか、市民も含まれるのか、曖昧である。戦略の説明は、イメージ図のところなので、イメージを共有するためには、シンプルでわかりやすい表現にするべきである。例えば、「民間・市民」と書く、あるいは「ステークホルダー」と書くようにしてはどうか。

（尾崎構成員）

戦略②『選択と集中』において「やらないことの決断」とあるが、「やらないこと」と明示するのは、市民が共感を持ちにくいように感じる。例えば浸水対策では、重点地区を定めて整備を行うと思うが、戦略的にどこを整備するかを決めているのであって、どこかをやらないということを決めているわけではないと思う。他の表現はできないか。

（上下水道事業管理者）

今までの仕事のやり方として、施策などで一度決定すると変更はしない傾向がある。その中で、職員の意識も踏まえて、『選択と集中』の中でやらないことを評価し、やらない決断も必要である。「やらない」というと、市民からは、事業をやらないのか、と思われてしまうかもしれないが、我々の経営戦略として『選択と集中』の中で、やめた後で次に何をしていくのか考えていく、ということを経営戦略としている。

（林構成員）

「外部チャンス」や「やらないこと」についての意図は理解できるが、「外部チャンス」という言葉は市民の理解を得にくく、「やらないこと」という言葉はマイナスイメージが大きいため、表現方法を考えてほしい。

（中川構成員）

一度決めたことに対して、やらない決断をすることはものすごく難しく、それをはっきりメッセージとして内部に示すということも、意義がある事だと思う。しかし、最初に貫上座長が確認されたように、この下水道ビジョンは市民向けでもあるため、市民が見たときにどのように受け取るかも考慮に入れた表現にするべきではないか。

（貫上座長）

やらないのではなく、目標値を達成した、もしくは目標値を見直すことによって達成したこととして扱い、他のところに投資を行うのではないか。

（上下水道事業管理者）

里道・私道の整備など、費用対効果を踏まえ、必要なところに必要な投資を行い、いかに収益を上げていくのかを考えて、やらない決断を行う。

（林構成員）

本ビジョン期間内ではやらないという意味であると思うが、ここにやらないことの決断ということ、この先ずっとやらないという意味になってしまう。

(中川構成員)

里道・私道の下水道整備については、持ち主が不明であるなどの一部地域は半永久的にやらないことも考えられる。

(林構成員)

里道に関する項目など個別の項目の中では、やらないと書いてもいいと思う。戦略の中でやらないと書くとどれをやらないのかわからないため、誤解をされないような書き方に変更できないか。

(上下水道事業管理者)

十分議論し、適切な表現を検討する。

(貫上座長)

「拡張から持続・進化の岐路に立っている」とあるが、「拡張」「持続」「進化」の三叉路ではなく、「拡張」と「持続・進化」の2つの路線に分かれており、これからは「持続・進化」という選択をしたいという認識でよいか。

(事務局)

おっしゃる通りの解釈で間違いない。これからは「持続・進化」という方向に向かっていくという考えである。

後期アクションプログラム（将来像①衛生的に暮らせるまちの実現）

(貫上座長)

資料3のIV-3に効果として「促進効果の高い里道・私道に重点化して整備することにより、下水道整備の目的を早期に達成できます。」とあるが、里道・私道を重点化して整備していくのか。

(事務局)

下水道整備は整備して終わりではなく、接続までを目的としており、里道・私道の整備においては、接続できる見込みがあるところを重点化することで、下水道の整備の効果が早期に達成できるという意味である。説明不足であるため、表現方法を検討する。

(尾崎構成員)

資料2のP.9にある水洗化率という言葉について、資料3における説明から、堺市では下水道に対する接続率として扱っていると理解できるが、一般的な水洗化率は浄化槽で処理しているところも水洗化人口に計上されている。水洗化率の定義について、どのように

考えているのか説明して頂きたい。

(事務局)

指摘頂きました通り他の事例において、水洗化率を、浄化槽も含んだ値として使用している場合はあるが、堺市の下水道ビジョンにおける水洗化率は、下水道への接続率という意味で使用している。誤解を生まない表記方法を検討する。

後期アクションプログラム（将来像②雨に強いまちの実現）

(尾崎構成員)

資料2のP.10において、「重点地区は時間約50mm対応の雨水整備を継続」とあるが、その後「雨水整備を行っても浸水被害が発生する地区については浸水シミュレーションを行い、既存ストックを活用した追加対策を検討」という記述がある。これは、50mm対応を行った上で、さらに何らかの対策を実行することを表しているのか、説明して頂きたい。

また、他都市では、重点地区と重点地区以外の整備水準が違う場合があるが、堺市の場合は、どのようになっているのか。

(事務局)

時間約50mm対応の雨水整備を完了したものの、浸水被害が発生した地区が存在し、分析を行った結果、雨の降り方等の個別の条件によって浸水が発生する可能性が発覚した。このような地区に対しては、個別の条件を加味した浸水シミュレーションを実施し、時間約50mm対応の追加対策を位置づけたいと考えている。

また、整備水準については、全域を時間約50mm対応としており、優先順位として重点地区を定めている。

(尾崎構成員)

整備を行っても浸水被害が発生することについて、市民にもわかりやすいような表現に改めるべきである。

また、重点地区と重点地区以外の計画降雨が違う都市があることも考慮して、誤解のない表現に変えるべきである。

後期アクションプログラム（将来像③震災に強いまちの実現）

(尾崎構成員)

資料2のP.14にある表について、「重要な土木施設の耐震実施」の単位のみが「か所」

で表記されている理由を説明して頂きたい。また、この表に限ったことではないが、H 2 6 末やH 2 7 末が横棒で表記されている意味を説明して頂きたい。

(事務局)

土木構造物の耐震化において、土木構造物のみで耐震化の工事を行うのではなく、他の設備機器の改築更新に併せて耐震化工事を行うよう検討している。そのためH 3 2 末に1か所の計上になっており、%で表記しようとする0に近い数字になってしまうため、か所数での表記を行っている。単位の表記については再度検討する。

また、H 2 6 末やH 2 7 末にある横棒について、目標値が存在しないという意味ではないので、表記について工夫する。

後期アクションプログラム (将来像⑦下水道が安定的に機能するまちの実現)

(中川構成員)

説明の中で笹子トンネル事故の話もあったが、維持管理において管きよが老朽化等の原因により破裂・破損等した時の影響を考えることは必須である。道路陥没の事故の事例を調べると、自転車や自動二輪車が転倒して負傷した、という案件が多数存在する。事故の原因が道路の陥没によるものであると、まず間違いなく市の責任になる。

賠償金の問題のみならず、社会的な責任も大きいため、アセットマネジメントは非常に重要な取組であると感じている。

(事務局)

堺市において、人的被害や物的被害が発生するような大きな道路陥没はないが、下水道が原因の道路陥没は毎年20件から30件程度発生しており、現在発生の傾向を調査している。現状で考えられる原因は、施工不良や他事業者の工事の中で下水道管が破損したなどの外的要因等があり、下水道が原因で人的被害や物的被害が発生した場合、管理者責任となる。そのため、管きよのアセットマネジメントについては重要事項としてとらえて、しっかりと取り組んでいく必要があると認識している。

また、管きよのみならず処理場等の機械が故障し、処理に支障が出ると、市民生活にも大きな影響が出る上、公共用水域に汚水が流れ出るという社会問題にも発展する。施設に関しても、限られた財源の中で人・モノ・カネを十分考慮したアセットマネジメントを今後もしっかりと取り組んでいく、ということを考えて重要取組に挙げている。

(林構成員)

資料3のIV—26に「不良債務」という言葉があるが、これが何を意味するのか、説明して頂きたい。

(事務局)

不良債務とは流動負債の額が流動資産の額を超える額であり、当面の支払能力を超える債務があることを示している。当初の下水道ビジョンの中では用語の中で説明しており、今回のビジョンの中でも、何らかの形で補足する。

(林構成員)

資料2のP.23について、表が何を表しているのか理解しづらい。個別の取組内容の意味などを文章で書き、最後にこの表を出すように工夫してほしい。

(事務局)

文章について、わかりやすい表現を検討する。

今回のビジョン策定の中で、資料編の作成を予定しており、資料編については事業の歩み、下水道料金の変遷、用語解説などの内容を検討している。専門的な言葉などの解説は、用語解説の中で行う。

(貫上座長)

IV-22にある図の中で、「委託レベル」という表記があるが、説明がないため説明を補足しておくこと。

(林構成員)

IV-26の課題で、「資本費平準化債の活用」とあるが、市民が理解できるように説明を補足する事。